

2018.8.23 金子

## 再び『職業奉仕と』と『社会奉仕』について(No.07)

最近の明るい話題として、周防(すおう)大島町で行方不明だった藤本理稀(よしき)ちゃん(2)を発見したスーパーボランティア、尾畠(おばた)春夫さん(78)の話がありました。

これを機に、再びロータリークラブに於ける『職業奉仕』と『社会奉仕』の関係を考えてみました。

地区ロータリークラブの教育で、『奉仕活動による**受益者**は誰か』と言う点に着目して次のような説明がありました。『**職業奉仕**に於ける受益者には、“**奉仕される側**”と“**奉仕する側**”の2つの集団があり』、一方、『**社会奉仕**には、“**奉仕される側**”のみが**受益者集団**である』との説明でした。ロータリーでは、**奉仕活動全体を5大奉仕活動に分類し、委員会活動を行う**ので、世間一般で言われている社会奉仕に対し、狭い意味での社会活動として規定しているので、このような説明に至ったのだと考えます。つまり、世間一般の社会奉仕活動の定義とロータリー内での社会奉仕活動の定義が多少異なっているとの認識です。

今日は、広い意味での奉仕活動を行う際に検討・留意しなければならない点についてお話し、したいと思います。

**先ず一点**は、**要らぬお節介、善意の押し付け**などに至らない様にする事です。つまり、奉仕を受ける側の**必要性、ニーズの探索・確認**が重要となります。**奉仕を受ける側の、真のニーズ**は何か、本当に為になるのか、等、色々な視点での『物事』を考える必要があります。ここで、敢えて、『物事』と言ったのは、所謂『物造り、事造りの分野』で言われている『物事』を意味しています。

例えば、**単に金品だけでなく、労働、精神的なものまでも含め多種多様な『物事』**が考えられます。スーパーボランティアの場合には、『**誰でも良いから、早く私の子供を探して欲しい**』ということです。

**第二点は**、自分又は我々が奉仕活動で提供きる『物事』は、何かを決める必要があります。考えられる『物事』は、奉仕を受ける側の『物事』と同じだけの多様性があります。スーパーボランティアの場合は、例えば、『**ドローンなど、子供を早く探す機材**』の提供ではなく、『**探し回る自分の労力**』でした。

**第三点は、『奉仕内容の需給マッチングと変換手段の検討』**です。奉仕者が提供出来る『物事』と、被奉仕者が必要とする『物事』とが『一致しているか否かの問題』です。異なる時には、『それらの間を変換する手段や仕組み』を考える必要があります。例えば、必要とするものが労働で、奉仕できる物事が金銭であった場合、金銭から労働に変換する手段・仕組みも重要となってきます。例えば、『ロータリークラブや国際ロータリー財団も変換の仕組みの一つ』と考えられます。スーパーボランティアの場合には、『探索方法』でした。『他の捜査員が配置されていない区域』で、且つ『大人は山で遭難すると谷を下るが、子供は山を登る習性がある』と言う認識のもと『自分の捜査労力提供』と『誰でも良いから、早く私の子供を探して欲しい』との『物事』間の変換として『独自の探索方法』を考えました。

**第四点は、最も大事なことで、奉仕活動への『動機の強さと継続性』**についての再確認です。動機によって、奉仕活動の全てに渡っての効率と継続性が決まってしまう。その動機は、『好き』か『儲かるか』から始まって『恩返し』、『使命感』、

『生き甲斐』、『満足感』等、多種多様な『動機』が考えられます。端的に言えば『精神的なものも含め、奉仕する側にも役立つか、為になるか』と言うことが出来ます。スーパーボランティアの場合は、『今の自分が在るのは周囲のおかげ。65歳で魚屋をやめて残りの人生、社会に貢献させてもらう』だそうです。又、ロータリー活動に於いても、『受益の順番』が重要であること指摘するまでもありません。

注意すべき最後の点となりますが、奉仕する態度、心構えも重要となります。『上から目線の奉仕』、例えば『金品を恵む』又は『貧しい人に金品を与える』のような態度は、返って反感を買う場合もあり、『奉仕活動における“本来の目的を達することも不可能”又は“成果半減”』との認識も必要と思います。スーパーボランティアの場合、『親子さんからの返礼を含め、今後一切の接触はお断りする』とのことでした。まさに“画龍点睛”とは此の事だと思えます。

今日の纏めとして、『職業奉仕とは、事業や仕事を通じて、息の長い、且つ“広い意味での社会奉仕”の一つである』と思えます。 会長の時間を終わります。